

看護学領域

看護学領域の履修例 1

1. 対象学生

本学修士課程から進学し、修了後看護系大学で教職に就くことを希望する学生

2. 志望理由

看護系大学を卒業後3年間総合病院の神経科・精神科病棟で勤務後、本学修士課程に在学中である。勤務していた病棟で思春期の神経性食欲不振症患者の看護を数例経験し、予防策について研究したいと考え現在はボディイメージと食行動異常を中心とした研究を進めている。博士課程に進学して、修士課程での研究を更に発展させ、エビデンスに基づいた健康増進のための指導方法について研究を行う予定である。修了後は、看護系大学の教員を希望している。

3. 研究課題

『思春期におけるボディイメージ・食行動異常に対する行動科学的アプローチに関する研究』

<内容>

修士課程の研究ではダイエット行動には痩せ志向が最も関与しており、現在体型の如何に関わらずダイエット行動が生起していることを究明した。また、性役割観との関連では痩せ体型に女性らしさを求め、ダイエットしていることも明確となった。食行動異常者の増加を防止するためには自己の体型をポジティブに評価させるための教育プログラムが早急に求められる。そこで、博士課程の研究ではダイエットによる生体機能への影響に着目し、定量的解析に基づいた行動科学的なアプローチを行う。

4. 履修科目

科 目	授 業 科 目	単 位	研究課題に向けて学生が各科目の授業から学びとる内容
講 義 ・ 演 習	共通科目	インタープロフェッショナルワーク論	1 多医療専門職間に横たわる様々な専門性や課題さらには連携の必要性について学び、将来基礎研究と臨床現場との融合を担う能力を涵養する。
		教育・研究者育成コースワーク	1 保健学領域における教育・研究者に求められる教育観や教育方法の在り方、エビデンス構築に関する方法論や研究倫理について学ぶとともに、研究企画力やプレゼンテーション能力を身につける。
	専門科目	基礎・実践看護学特講	2 食行動及び身体組成等の評価や個々の認知スタイル・行動特性に応じた健康増進のための効果的な支援方法について考究する。
		看護学特講演習 (体型認識・食行動・身体組成の 評価と健康増進のための支援)	2 研究課題の設定、文献検索及び方法論の選択、研究遂行のための手技等について修得する。特に国内外における体型認識(ボディイメージ)・食行動・身体組成の評価方法の検討や対象者個々の認知スタイルや行動特性に応じた疾病予防・健康増進のための教育方法や支援方法について探究する。
特別研究	看護学特別研究	6	研究課題のとおり
計		12	
研究課題	思春期におけるボディイメージ・食行動異常に対する行動科学的アプローチに関する研究		
主指導教員	看護学領域担当教員	副指導教員	生体検査科学領域担当教員

看護学領域

看護学領域の履修例 2

1. 対象学生

修士課程を修了した看護職者で、修了後は、臨床において指導的役割を果たしていくことを希望する現職者

2. 志望理由

看護師免許取得後5年間、総合病院の慢性期病棟に勤務し、多くの壮・老年期にあるがん患者、脳血管障害患者、腎疾患患者、糖尿病患者等の看護を経験してきた。慢性疾患は長期の治療・自己管理が求められるが、長年習慣化されてきた生活習慣の改善・変更は容易ではない。修士課程では、脳血管障害の背景にある高血圧患者のセルフケアと心理状態について研究を行ったが、地域包括ケアが推奨されている今日、高齢の慢性疾患患者の生活に焦点をあてた在宅看護のシステムについて多面的な研究の必要性を実感し、博士課程への進学を希望した。修了後は、臨床において管理的な立場から患者指導を専門としていきたいと考えている。

3. 研究課題

『脳卒中を発症した高齢患者の退院支援に関する研究』

<内容>

本研究では、脳卒中を発症した高齢患者が後遺症をもちながら地域で生活を続けていくための退院支援のあり方を明らかにすることである。脳卒中を発症した高齢患者がたどる多様な経過（転院、入所、自宅退院）に応じた退院支援の現状を調査し、インタープロフェッショナルワークの視点に基づき、今後の退院支援の在り方を構築、提案する。さらに、個別の退院支援計画の基に支援した事例の追跡調査により、その有効性を検証する。

4. 履修科目

科 目	授 業 科 目	単 位	研究課題に向けて学生が各科目の授業から学びとる内容
講義・演習	共通科目	インタープロフェッショナルワーク論	1 多医療専門職間に横たわる様々な専門性や課題さらには連携の必要性について学び、将来基礎研究と臨床現場との融合を担う能力を涵養する。
		教育・研究者育成コースワーク	1 保健学領域における教育・研究者に求められる教育観や教育方法の在り方、エビデンス構築に関する方法論や研究倫理について学ぶとともに、研究企画力やプレゼンテーション能力を身につける。
	専門科目	地域生活支援看護学特講	2 地域包括ケアシステムの全体的理解と病院における在宅看護の役割について考察する。
		看護学特講演習	2 保健医療福祉、社会学における多方面からの文献を通して地域包括ケアシステムを推進するうえでの現状と課題、および将来的ビジョンを理解し、多角的に考える。
特別研究	看護学特別研究	6	研究課題のとおり
計		12	
研究課題	脳卒中を発症した高齢患者の退院支援に関する研究		
主指導教員	看護学領域担当教員	副指導教員	総合リハビリテーション科学領域担当教員